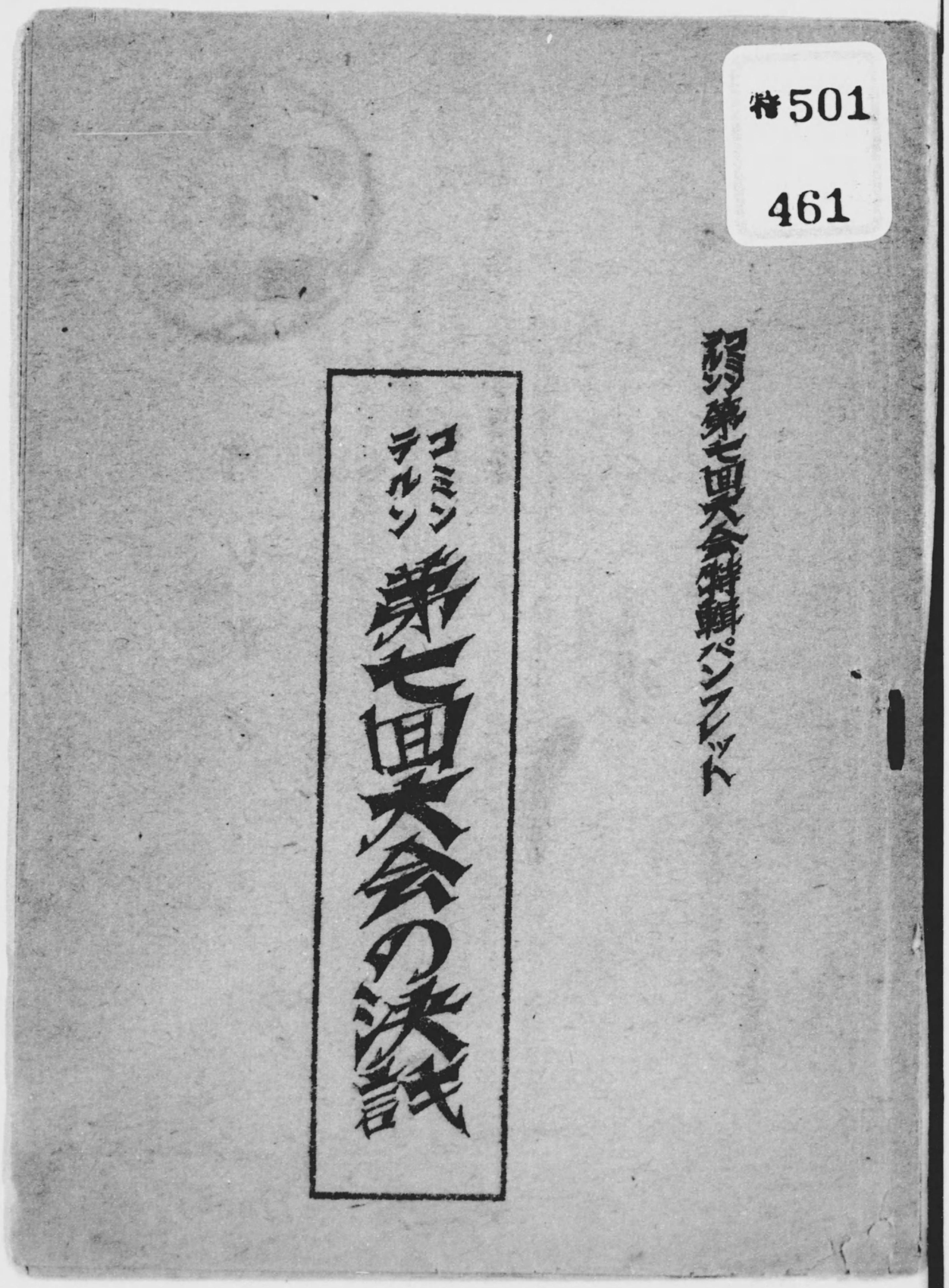
特501
461



0034285000

0034285-000

特５０１－４６１

コミンテルン第七回大会の決議

国際共産党日本支部日本共産党関西地方委員会・編

労農教育出版部

１９３５．１２序

AGC

特501
461

国立国会
52.9.5
図書館調査書

はしがき

世界史上の決戦たる日本天皇制テロルの強化は、世界革命運動に関する諸情報の入手を絶んど不可能ならしめることにより、日本プロレタリアートを国際的に孤立化せしめ、直面せらしめやうと狂奔しつゝある。この極度の困難にあつて、吾々は辛うじて入手し得たるコミンテルン第七回大会――それは世界革命運動の行手を照らし、各国共産党に方途を教へ、万国の労働者に勝利の確信を与へるところの、世界史上未曾有の巨火の燃え上りだ――に関する正確にして权威ある情報を、この特輯パンフレットを以つて順次報道する。

希くは一字一句洩さず、同志諸君の革命的血肉にわんことを。

一九三五年　十二月

日本共産党日本共産党
関西地方委員会

77W33739

目次

はしがき
コミンテルン第七回大会正式に開会さる
社会主義か ファシズムか……開会演説 同志ピークの挨拶
革命の勝利のために……コミンテルンおよび同大会決議

コミンテルン第七回大会正式に開会さる

コミンテルンは七回世界大会が一日は、七月二十五日午後七時半から、聯合会館
往の間において、五大陸、殆んど全世界各国の代表者参列の上、開会された。
英雄的殉難者共産党の故ジョン同志ピークは、代表者達に向ひ熱烈な歓迎の辞を述べたが、
同志ピークが壇上に現はれたとき、全会衆は、割れるばかりの拍手を送った。
当夜同会館の表口は四万国の労働者同盟によって十六ヶ国語で書かれた赤旗によって
飾られてゐた。
代表者達は、美しい花束で飾られた階段をのぼり、革命の司令者指導者達の肖像並
に諸国の革命的ポスターの意義深い事件を意味いた多数の特別展覧を眺めながら、壮の間に
入場した。

▽指導者達の肖像画△

会場の正面、議長席の後には、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの巨大
な肖像画が掲げられ、各国語で書かれたマルクス・レーニン主義の引用句が輝き渡してゐる
レーニンの大スローガンが、四方の壁を飾った。正面から入口にかけて、天井には巨
大な赤い四角の旗とファシズムと戦争に抗して、プロレタリア統一戦線へ！の
スローガンが大ヶ国語で、たなびかしてゐる。

会場の片隅には、二百六十ヶ国語で「世界プロレタリアートの社会主義祖国、ソビエ
ート同盟万才！」「ソヴィエート同盟万才！」と書かれてゐる。
二百のスローガンにとりかこまれた代表者に白人あり、黒人あり、黄色人種あり、
ヨーロッパ人、アメリカ人、黒人、印度人、中国人、日本人あり、之等全ての肉体的
者インターナショナルに結合され、二百は、第二インターナショナル大会、即ち、反動的
さうな白人の間に、あちらこちらの大陸から、かり集めた数人の黒人等は、ちょこまかと
二インタの大会と、天地の差である。

▽デイルマンへ敬意を△

そこには、合法、非合法各国共産党の斗士たちが参加してゐる。同志スターリンが入
場した時、満堂われんばかりの歓声がまき起った。代表者達は立ち上り、数分間、熱烈
の声を高めた。
閉会宣言にさきだち、同志ピークは、敵の手に倒れた独逸労働者の偉大なる指導者
エルンスト・テールマンに言及し、全会衆は拍手をもって彼に敬意を表した。
大会は、コインターナショナルの信念を以って、二、に正式に開会された。
会場レジウム（幹部会）選挙には、四十二人、日本からは岡野が選ばれた。

社会主義がファシズムを

——同志鶴見同志ヒーグの挨拶（七月二十六夜の会合）

▽ソヴエート同盟勤労者、その指導者スターリン△

本日、我々、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカ、オーストラリアの勤労者代表がコミンテルン第七回世界大会の大会を迎えるのは、ソヴエート同盟であり、陰謀なき社会主義建設に勝利を記録しつゝあるソ同盟の勤労者である。我々は、我々の代表、ソ同盟共産党、その中央委員会、並に地球六分の一の土地に社会主義の勝利を証拠しつゝある偉大なる組織者、社会主義のために日ひつゝある全世界勤労者の指導者、同志スターリンに、まづ何よりも先に感謝をわくる（歳の如き拍手、万雷の声上る）

社会主義のソ同盟に於ける偉大なる世界史的勝利は、我等の友、我等の教師、我等の指導者だる同志スターリンによって率ひられるソ同盟共産党の指導下に、辛苦艱難、三年の中に勤労大衆によってかちとられた。今や永年にわたる社会主義の夢、全世界プロレタリアートの共通の理想に不断の努力をしつゝ、ある社会主義は、現世の物となった。

ソヴエート同盟に於ける社会主義の勝利はプロの勤労者をして、自己のカに信頼を新たしめ、社会民主々義勤労者大衆をして、急激進をなし、資本の総攻撃と、帝国主義の動乱、ファシズムと新たなる帝国主義戦争準備に抗して、共産主義者と共同戦線を行

はしめてゐる。ソヴエート同盟に於ける社会主義の勝利は、大衆の眼に、資本主義を目かけて、急襲せんとするの決意を益々かたくわしめてゐる。

▽テールマン、ウラムシ、市川其他に敬意を△

然、我々の言葉、我々の見解は、勤労大衆が、最も利害的に、倫理的利害の一致する、自己の生命をかけはだしてプロレタリアート独裁に対し、自己の生命をかけはだしてプロレタリアート独裁中に於ても最も反動的な、排外主義的、且つ、野蛮な、独裁の獄屋にある同志、独逸ファシスト政権の階級的犠牲者、同志テールマンに向けられる（割の出る拍手）。我々の言葉、我々の見解は、伊太利ファシズムの牢獄に呻吟したラコーシ、日本反動の牢獄に、あえぐ同志市川を始め、ファシスト政治人民の前に、おのゝの怒りを一つとなく、英雄的抵抗を示した同志達に対してかけられる。

▽社会主義がファシズムを△

社会主義がファシズムに——二月二十六日、全人類が直面するスレンマである。重圧と窮乏のドン底にプロレタリアートをつき落し、崩壊に瀕する資本主義を併呑の土台に導、むしばみ込んだ世界経済恐慌は、幾度か国々に於て、革命的発展の前提條件を成熟させた。ソヴエート同盟に於ける社会主義の勝利は、全世界資本主義のモリ上りつ

つある彼の動向を決定し、二の運動を权力への闘の斗爭にまで引き上げつつある。

プロレタリア革命の発展しつゝある條件下に、次の一歩をもつて自己の权力を奪ひ、小つつあることを自覚した独逸ブルジョアジーは、社会民主々義、諸切階級の間に未だ根ぶかくあるところの可成の動搖、並に、諸切階級間の分裂抗爭と、多くのファシスト分子の社会民主主義による拒絶とを利用し、プロレタリアートに対して、新たなる攻撃を開始し、独逸労働者階級に打撃を与へた。独逸に於ける、ファシズムの勝利は、代国ブルジョアジーに勇気を与へ、闘争大衆に対するファシスト的攻撃の新たなる強力なる波を誘発した。

それにしても、ブルジョアジーは、ファシズムのテロルと共に、自己の支配を長期間に亘つて救ひ得ないことを知つてゐる。この故にブルジョアジーは、新しい新秩序、世界の新らしい分割に進出地を求める。彼等は、他国を略奪し、他国の領土を奪取し、かくて資本主義の命を長引かしめんとしてゐる。

日本帝国主義は、一歩また一歩、支那の土地を占領し、世界の（再）分割を始めた。伊太利・ファシズムは、エチオピアに対する戦争を継続しつつある。独逸・ファシズムはヨーロッパの（再）分割のための戦争計画を立て、戦争を好まぬ国々に、武装を与へ、弱小国の独立、自治性を奪ひ、ソヴエート同盟に対する干渉準備に邁進してゐる。

あらゆる日々に於てファシズムは資本主義――共産主義こそ人類を前進せしめつつあるあらゆる――に対して戦争をとつて立ち、ソヴエート同盟――ソ同盟――を、

敵視し、その政治的暗殺を企図し、諸切階級間に行なはることは出来ないのだ――

に対する戦争を組織してゐる。

だが、ファシズムが狂暴になり、ファシスト・ブルジョアジーが、新しい戦争準備に狂奔すればする程、ファシスト共に抗し、社会主義の勝に対決といふ、動揺者の深度を、ヨリ深度に成長する。

全世界の民衆は、ソヴエート同盟の分析機関による平和政策を準拠し、そして、ソ同盟のこの政策の故にこそ――全民衆は、戦争を欲せず、従つて諸国間に於ける平和の支柱として、日一日と、ソ同盟の周囲に結合しつゝあるのだ――世界戦争は、今日迄の処開始されてゐないのだ。

▽ファシズムに抗し、ブルジョア民主々義擁護のために△

我々共産主義者にとつて、資本主義世界の此の国、あの国に、如何なる種類の政治的制度が支配してゐるか、ないかは、決して無関心でない。我々にとつて最も重大なことは、動揺者の利益である。この故に、我々共産主義者は、如何なる程度にせよ、ブルジョア民主々義の原則に忠実であるものに対しては、すべてこれとガッチリ組ませ、民主主義的国田の一片をも擁護するために、ブルジョア・民主々義的）を拡張し、この基ソの上に立つて更のプロレタリア民主々義のために斗ひ、人による人の搾取の廃止のための斗ひを斗ふ為である。

我々は、ブルジョア民主々義の、全ての要素を支持者と共に、ファシズムに対抗し、

既会制度とデモクラシーの擁護を擁護するために、斗る用意があるのだ。

▽共産主義者と民族的利害△

我々共産主義者は、決して、民衆の敵（民族）的利害に対し、他人行儀やはなれの態だ。国民の名に於て、口を開く権利をもつものは、民衆を押しひしげるこの支配階級ではなくて、資本主義的奴隷化とファシスト独裁の重圧から民衆を擁護しつゝある我々共産主義者である。世界最小の民族でありつゝ、我々は、常に、民族自決（民族に自ワの運命を決定させる）の権利を主張した。今後とも、我々は、この主張をすてないで、あゆう。もし祖国・ファシズムにして、現在のヨーロッパの群小自治国の独立を犯したその統一を撹乱したとし、主権諸小国の（民族）ソルジョアジーが、この攻撃に抗し、戦争行為に出でたとしやう。（弱小者の）この戦ひは正当な戦ひであり、プロレタリアート並に共産主義者は、かゝる戦ひに参加せざるを得ないのである。

▽統一戦線をもつて△

最近数年間に於ける階級闘争の影響下に、労働者大衆、とくに社会民主々義労働者の間に、急激な動揺が見られ、決定的闘ひに出でんとする気運向に日一日と増ひつゝある。あゆゆる国々に於て統一戦線運動を起りつゝあるが、之は、改良主義から、革命的闘争への、労働者大衆の意識を意味する。多くの国々に於て、動揺者

大衆の利害的な反撃と闘争を擁護するために、民族共産主義者と、社会民主々義者の間に動揺が成立つてゐる。

共同の戦ひにおける我々の兄弟達、資本の攻勢と、ファシズムと戦争に抗し、共産主義者との統一戦線をもつて闘争しつゝある社会民主々義労働者諸君に対し、我々に手をさしのべて去れ、ソルジョアジーと、資本の手先共――――即ち社会協調政策をもつこゝ、かくてプロレタリアートを弱りせるに於いて、つた者に――――によつて、我々は人為的に分裂させられた。我々共通の目標は、自ワの力に対する労働者の自信力を高め、その全労働者に対する影響力を強ツることであると、

▽改良主義の時代は去り行く△

世界各地に於ける階級闘争を各国に、我々は今や、コミンテルンが、国際大会に集合してゐる。

過去七年間に、我々は、巨大なストライキ運動を目撃した。過去七年間に、プロレタリアートはソルジョアジーに対する共同的闘争に何回となく立ちとつた。

過去数年間に於ける階級闘争の規模の偉大さは、資本主義に対して、国際労働者の大、決定的闘争に立ち上り、全世界を震撼して、資本主義の土台を揺がんとする気運が（全）大衆の間に熱しのいかなるものをも示してゐる。

労働階級運動に於ける改良主義の時代は、過去に属けんとしてゐる。インターナショナルは、深刻な危機にある。全ロ労働組合運動には、プロレタリア階級闘争の時代が

出撃する。我々の眼前には、革命の側に味方者を獲得するために、新物質を武器、大衆の闘争を指導すると云う困難な仕事がある。この大会の前には、近き将来に於て開催されるであろうところの憲法制定議会の為めに、大衆の印象をどうとらえるか、どうやって、全勤労者を統一するために、ある。我々は、ブルジョワ的な新しい特質に対する闘争に於て、全勤労者を統一するために、立つ地点、戦術、大衆として、ファシスト攻撃に対する防戦から、プロレタリアートの支配社会主義のための闘争に移行せしむるために、強立つ戦術を考慮せねばならぬ。

▽進むべき闘争への道標▲

我々の目的達成の障害は、闘争は、我々にとって奪はれた。我々は、二月の反動の同盟罪の重責の責任を負う。

覚悟せよ、クラフ・ツェトキン、ギロフ、クイビシエフ、セン作山、シエル、さい然白、其他、死、或は、ブルジョワジスト・テロルによって我々の闘争から奪い去られた幾百の同志諸君。（全会場は立ち上り、オーケストラは葬送行進曲を奏す）

覚悟せよ、世界の共産党の印象にして、宇宙の星に依って、我等と共にあるべき同志諸君。

しかしながら、搾取階級大衆の解放するための、我々の偉大なる闘争の時初の前進を阻止し得るか？世界の何処にも、過去の何処の所にも増して今日、我々はかく叫ぶべきである——

搾取者の頭は、全勤労者、搾取者に対する民衆の怒りの頭である。我々の理論は、唯一の革命的理論、マルクス、エンゲルス、レーニン

スターリンの理論である。我々の目的——即ち社会主義——こそ、全世界のプロレタリアートを人類の救ひである、と。

我々の主要スローガンは、ソヴィエト政府、二月である。

コミンテルン並びに全ての労働者、被搾取者の指導者同志スターリンバンザイ！（拍手）

万歳の声、しばし鳴りやまず）。

二、K自分はコミンテルンの国際大会正式開会を宣言する。（大会場は、ヒヤー・ヒヤー

リー・ニヤー大、二月二七日第一回大会）

革命の勝利の為に

コミンテルン第七回世界大会の決議

コミンテルン――国際共産党――第七回大会は、新執行委員会代表同志ピークの報告にもとづき　八月一日の会合において、以下のごとき決議を満場一致で可決した。

(一) コミンテルン――国際共産党――第七回世界大会は、新執行委員会の政治的方針（ライン）並に、その実際的指導を承認する。

統一戦線と人民戦線

(二) 第七回世界大会は、一九三三年三月、三四年十月、三五年四月に、コミンテルン執行委員会による、第二インターナショナル指導部並にその各国支部に向つてなされた提案――即ち、ファシズムと資本の攻勢及び戦争に対する共同行動をとろうといふ――を再説する。

第七回世界大会は、第二インターナショナル執行委員会とその支部の大部分が、明白に、ブルジョアジーとの連合を求めていることを、ますます明白にしてゐる事、数多の社会民主主義者並に、いくつかの社会民主主義政党が、すでに反動者と呼ばれるに至つて、明白に大衆の利益のために、ファシズムに抗して手を結ぶことの了解を拒絶し、ファシズムに対抗する共同戦線に対して、国家的並に国際的規模において統一戦線樹立に努めることを指令する。

改善を要求する諸点

(三) コミンテルン第七回世界大会は、社会民主党有力者ところの広汎な階級大衆に対して、行動共産党の行動並に人民ローカン委員会を結成することを提唱する。この運動を出発点として、本大会は、コミンテル各国支部に対し、過去において、これらの支部が、社会民主主義政党者に接近するのへ（意味は出すこと）を拒絶してゐたところの宗派的偏狭の残存物を、一刻も早く克服し、本来、とにすればその性質において独裁的であり、大衆に対するいさ進かつたところの傾向、宣伝の方法なれば、これらの方向に積極的に動の方向をあくへ、これらの傾向を大衆の目前の要求、日常の利害と結びつけることを要求する。

(四) コミンテルン第七回世界大会は、コミンテルンのいくつかの支部が、統一戦線、

[illegible]を実践に移すことに成功しているとしても、部分的結果――[illegible]
き、[illegible]的なものもある――[illegible]
主義の[illegible]を達成するための斗争の必要を理解しなかったこと、[illegible]民
族[illegible]、及び帝国主義的人民戦線、樹立の要求を認めなかったこと、政民[illegible]
[illegible]組織、および[illegible]ブルジョア諸政党によってつくり出された動労者の各種大衆団体間で活動
することを怠ったばかりしろ[illegible]いたこと、婦人、青年、ほかの[illegible]部門小ブル層[illegible]の間で
の活動を過小評価したこと、更には、（コミンテルン）執行委員会は、各国支部に対し
て政治的指導を与へることを放棄したばかりであったことを、重大な欠点と認める。
革命化の過程に、大衆の運動の法則に立つことを要求されてゐる各国共産党の重要性
と責任――これは同盟に大きく、重くなりつゝある――を考慮に置き、また、各国支
部そのものに、指導部を強化する必要性を行動に移し、コミンテルンが世界大会は
執行委員会に次の二ことを指令する。

執行委員会に対する指令

(イ) （執行委員会は）その活動の主要な世界労働運動の基本的な政治的、戦術的方針
の決定を動員するに当たり、それを小の同盟における具体的適用と、特殊的条件
に応じ、従来通り同盟について決定を与えること、一般に各国共産党の内部組織問題は
の[illegible]を[illegible]ゆうにすること。
(ロ) 各国共産党内に[illegible]ボルシェヴィズム的[illegible]、また、その[illegible]を系統的に[illegible]

し、かくて、各国共産党の事件の[illegible]に際し、コミンテルン世界大会並に
執行委員会[illegible]の上に立って、樹立に、且つ[illegible]に共産党運動の政治的、戦
術的問題の正しい解決策を見出し得るやうにすること。

具体的分析の必要

(ハ) その政治的及対者たちに対する各国共産党の思想的斗争に[illegible]的な指導を与へる
こと。
(ニ) 各国共産党をして、自己並に世界共産主義運動の経験を（有効に）利用することを
得しめるために援助を与へること。但し、或国の経験を機械的に他国に当てはめること
とや、具体的なマルクス主義的分析の代りに、型にはまった方法、一般的な方程式を
振りつけることは、これを避けること。
(ホ) コミンテルンの有力各支部の正式代表者たちを、執行委員会の日常の仕事に従来
よりも一層緊密的に参加せしめ、かくてコミンテルン指導部諸機関と各支部をより
緊密なものにすること。

青年の間に於ける活動の後者

(ヘ) 共産青年同盟および[illegible]、青年の間に於ける活動を過少評価し、また幾多の国
[illegible]に於て、この仕事が不充分であることに[illegible]み、コミンテルン対と国世界大会
は同盟共産党並に同盟青年共産同盟の執行委員会に対し、次のことを指令する。即ち

[illegible]

[illegible]

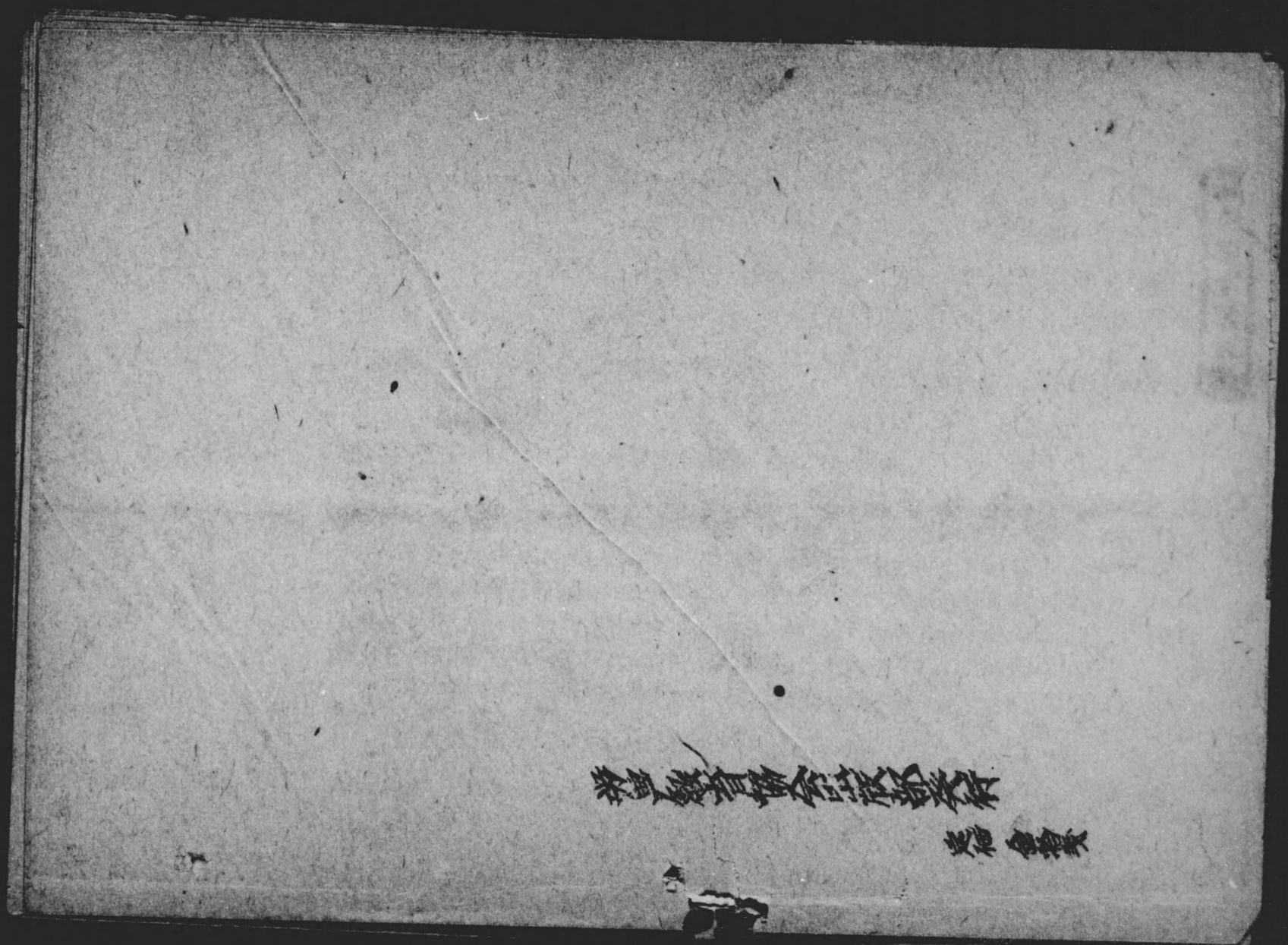
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館